

## 海外での企業活動支援やトラブル解決などに活躍してきた

危機管理と情報分析、交渉のエキスパート

齊藤 貢 (さいとう みつぐ) さん

男性 63 歳

### 【得意分野】

- 日本企業の海外進出や海外活動支援（特に中東やタイなど）
- 海外でのトラブル解決支援や、危機管理アドバイザー
- 情報の収集、調査・分析、プレゼンテーション
- 講演

「大使館員の立場から、海外進出した日本企業の支援、特にトラブルの解決を数多く手掛けてきました。

たとえば、タイで現地生産している自動車のために、フィリピンから変速機を5年間で200万個免税で輸入できるという許可を得ていたA企業に、タイ税関が年間40万個以上の輸入には脱税であると、追加徴税を通達してきました。調べてみると、タイでは税関職員が脱税を見つけると、追加徴税額の10%を報償としてもらえる仕組み。A企業への脱税通告は、税関職員の報償狙いの難癖だと思われました。マスコミを使って抵抗されましたが、最終的に処分の撤回に持ち込んでいます。

このほか、バンコクの都市鉄道を入札していたにもかかわらず、なかなか契約に至らないという相談を日本の企業連合から受け、1年近くかけて、受注に漕ぎつけたこともあります。これは、裏で中国企業の妨害があったためのトラブルでした。

イランでは、商社の債権回収問題なども解決しています。

その国や地域に関する情報を収集し、相手のポジションや意図を読み取り、どこに落とし込むかを探りながら、必要に応じてその国の政府に働きかけたりしてきました」

## 【略歴】

1980年 一橋大学社会学部卒業

同年 外務省に入省

カイロでアラビア語研修を受けた後、オックスフォード大学の中東センターに1年間留学。

その後、外務省国際情報局課長、在アラブ首長国連邦日本大使館公使、在ベルギー王国日本大使館公使などを務める。

2010年に内閣官房の危機管理・安全保障担当内閣審議官となり、東日本大震災の際の福島原発事故では、除染施設の整備や米国との連絡等を担当する。

2012年 国連アジア太平洋経済社会委員会（本部バンコク）の日本政府常駐代表に。

2015年 オマーン・スルタン国特命全権日本大使に。

2018年 イラン・イスラム共和国特命全権大使を拝命し、2020年11月に外務省を退官。

「外務省では、ベルギー、アメリカ、タイにも勤務しましたが、ペルシャ湾地域諸国での勤務が長く、中東—特にペルシャ湾地域に関しては専門家を自負しています。

また、危機管理は海外だけでなく、国内でも内閣審議官として携わっており、十分な知見があります」

## 【直近の動き】

\* 「米政権交代とイラン・湾岸情勢の行方」を、日本記者クラブで2月に講演。ユーチューブで公開され、23,000回以上視聴されている。

\* 3月には、経団連で講演。

\* 9月より東邦英和女学院大学で、非常勤講師として「地域紛争論」、「現代の中東」を講演することに。

## 【モットー】

ネバーギブアップ

【勤務条件の希望】

非常勤

【その他】

エジプトのカイロでアラビア語研修を受けたほか、オックスフォード大学の中東センター、米国コロンビア大学の中東研究所にそれぞれ1年間留学した。

2008年 外務大臣表彰（戦後の厳しい環境下のイラクでの外交活動に対して）

【趣味】

手品と料理